

令和 6 年度 園評価書

園番号

32

園名 静岡市立飯田南こども園

Ⅰ 経営の重点に関わること

評価段階（Ａ：よくできている Ｂ：概ねできている、Ｃ：あまりできていない、Ｄ：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
自分が好き 友だちが好き	思いを伝えようとする子	「やりたい」と思う遊びを見つけ、考えたり試したりしながら心ゆくまで楽しんでいる	各学年ごと、保育教諭が日々、様々な用具や素材を準備し、子どもの遊びの様子を見ながら環境を整えたことで、一人一人が好きな遊びを見つけ自分なりに考えた試したりしながら楽しむ姿があった。一方でやりたい意欲は持っているものの遊びが継続せず、じっくり遊びこむ姿が少ないため、関わりや環境の工夫が必要である。	A	A	・『遊びこむ姿』と『好きな遊びを十分に楽しんでいる姿』の違いについての園説明を聞き、小学校での『遊びを深める』姿とのつながりを感じた ・保育参観の中で、子ども達が実際に友達とコミュニケーションを取りながら遊ぶ姿を見て、遊びの中で考えたり試したりしている事がよく見て取れた ・子ども達が、物おじせず自分の言葉で話し主張したり、嬉しい気持ちを伝えようとしたりする姿が保育参観の中でたくさん見られた。のびのびと表現できるのは、普段の生活の中で自分に自信があり安心感があるからだと感じた	・一人一人が好きな遊びを十分に楽しむ中で、友達に目向け関われようにするために、保育教諭は子どもの日々の遊びをしっかりと見取り、その先を思い描きながら環境構成や援助の方法を考えていく。また、園内研修において子どもの発達を押さえた上で、遊びの展開や考えたり試したりする姿の見取りについて学び合っていくようにする ・園庭の使用時間の割り振り方や、職員間の連携を工夫し、子ども達が心行くまで遊びこむ事のできる環境を整えていく。また、外遊びと室内遊びのつながりの持ち方や、今日から明日につながる環境作りができるように、話し合いの場を新たに設けるなど、職員の情報共有の仕方や頻度を考えていく
		思いや考えを自分なりの表現で、保育者や友だちに伝えようとする姿がある	保育教諭が子どもの思いを肯定的に受け止め、安心して思いを表現できるような雰囲気作りをしている。個人差があり、伝え方は様々だが、保育教諭や友達に自分なりに思いを伝えようとする姿が増えている。	A	A		
		遊びの中で友だちの思いや良さに気づき、一緒に遊びを楽しんでいる	保育教諭が子どもの遊びに関わりながら、友達と遊ぶ楽しさを共有したり、友達の良さを見て発信したりした事で、幼児は気の合う友達と同じ遊びをする楽しさや喜びを感じている。乳児は、一人一人が十分に好きな遊びを楽しむ中で、友達に関心を持ち、一緒に遊ぶ楽しさも見られる。	A	A		

Ⅱ 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	保育者が発達の道筋を理解した上で、それぞれの年齢で発達に必要な経験ができるよう意識を持ち関わっている	職員会議や研究保育での学びを活かし、学年ごと子どもの育ちや発達に応じた遊びの経験ができるよう環境作りをしている。年間計画と照らし合わせながら今の子どもの現われを捉えている。	B	A	・発達についての研修は、とても大切な事。特に若い職員は、学校で勉強した事と、実際に子どもを見ての学びと照らし合わせると理解を深められる ・子どもが様々に遊ぶ為の室内の環境設定、道具や材料の準備など、子ども達の遊びを見通して十分な量を用意しており、小学校側が真似したいと感じる部分がある。	学年ごとでの発達や育ちを園全体でより深めていけるよう教育課程をもとに指導計画を立て園内研修した情報共有をしたりしていく。また、遊びの拠点や活動を意識した環境作りをしていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	動と静のバランスに配慮した活動を計画し、年齢発達に合わせた生活リズムが確立できるよう努めている	乳児・幼児で園庭の使用時間を分けたことで、各歳児が体を動かして遊ぶ時間が確保されている。室内では、机上遊びや絵本の読み聞かせなどの話を聞く習慣が定着しつつあり、静の活動の充実につながっている。	B	B	・子どもが、季節や気温による子どもの体の動きに配慮して園庭の使用時間を乳児幼児で替えるなど、子どもたちが健康に過ごしやすいよう工夫している事が分かった。	各クラスの遊びの様子を伝え合う機会の充実を図り、環境構成に活かしていく。また、机上遊びや製作遊びなど静の活動についての学びを園内研修などで深めていきたい。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの発達、姿や思いを捉えた教材や場所など、一人一人がじっくりと遊びこめる環境を整えている	各学年、子どもの遊びの様子や発言等から“今”の興味関心を捉え、教材の提供やそのタイミングを考え準備できた。『じっくり遊びこむ』ために、戸外と室内の遊びのつながりを意識するなど、工夫が必要である。	B	B	・季節や気温による子どもの体の動きに配慮して園庭の使用時間を乳児幼児で替えるなど、子どもたちが健康に過ごしやすいよう工夫している事が分かった。 ・職員は転動があるため、今年作り上げてきた事を来年度に受け継ぎ、より良いものにしながら継続していく為に周知の仕方や積み重ねを大切にしていってほしい。職員は、一人で考えず伝え合い一緒に考えていく事でより良い方法が考えられている。	より子ども達に合った環境作りをするために、会議等で園庭玩具の見直しや遊びや環境作りの共有・相談の機会を設けていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定での訓練を行い、職員同士連携を取りながら状況に応じた行動が取れ、園児に対しても自分で身を守れるような指導ができる	年間計画に基づき、様々な想定で訓練が行われている。訓練後の課題を職員会議で検討することで改善点を周知することができている。また、新たな方法であるトカゲのポーズも、子ども達に浸透しつつあり、自分で身を守ろうとする意識が高まっている。	A	A	・職員は転動があるため、今年作り上げてきた事を来年度に受け継ぎ、より良いものにしながら継続していく為に周知の仕方や積み重ねを大切にしていってほしい。職員は、一人で考えず伝え合い一緒に考えていく事でより良い方法が考えられている。	・ブール、午睡中の避難訓練の時期の見直しを行う ・訓練後の改善点については、職員会議で検討したことを全員に周知することを徹底していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗い、うがいなど基本的な生活習慣が身につくよう、年齢や発達に合わせた指導ができている	年齢に応じ、写真・イラストや保育者が見本となり基本的な生活習慣が身につくよう環境作りに努めており、子ども達自身で手洗い・うがい等の必要性に気が付くことができるよう、言葉かけもしている	A	A	・子どもが、家庭で園での出来事をよく話している。子どもが伝えてくれた事が、今日の評議員会で見た事とつながり、理解が深まった。 ・支援の必要な子を、担当が一人で抱え込んでしまふ事例を過去に目にした事がある。全職員に共有し、多くの目で見ていくと様々な意見がもらえる為、職員間の情報共有やみんなで考えていく事は重要と感じる。これからも意識して取り組んでいってほしい。 ・しろくまの会を見る機会があると良かった。 ・職員は職種の違いやシフト勤務があり、会議に参加できない時には個人が自ら情報を取り込もうとする意識を持つ事が大切になってくるのではないかと、しかし、現場の工夫だけでは限界がある。改善の為には、システムの見直しなど、静岡市の協力が必要になってくる	手洗いが不十分な子どもや手をふくことが習慣化されていない様子も見受けられるため、手洗い指導等を実施し、保育者も手洗い・うがい等の重要性を改めて理解し子どもたちの見本となるよう努めていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々の発達や特性を理解し、職員間で支援方法を共有し保育している	月の反省用紙を改善し、職員会議やケース会議などを通して支援方法や関わり方を職員間で共有できているが、『実践』することに難しさを感じている職員も多い。しろくまの会の様子は写真及び書面で報告されているが実際の様子はわかりにくい。	B	B	・子どもが、家庭で園での出来事をよく話している。子どもが伝えてくれた事が、今日の評議員会で見た事とつながり、理解が深まった。 ・支援の必要な子を、担当が一人で抱え込んでしまふ事例を過去に目にした事がある。全職員に共有し、多くの目で見ていくと様々な意見がもらえる為、職員間の情報共有やみんなで考えていく事は重要と感じる。これからも意識して取り組んでいってほしい。 ・しろくまの会を見る機会があると良かった。 ・職員は職種の違いやシフト勤務があり、会議に参加できない時には個人が自ら情報を取り込もうとする意識を持つ事が大切になってくるのではないかと、しかし、現場の工夫だけでは限界がある。改善の為には、システムの見直しなど、静岡市の協力が必要になってくる	会議だけではなく、朝の打ち合わせを利用したこまめな共有やしろくまの会への様々な職員の参加を通して、支援方法の共有から実践へとつなげていけるようにする
5 組織運営	(1)組織体制の充実	担当者が分掌に責任を持ち取り組み、進捗状況の共有を図っていくことで、職員が協力し合える体制ができている	担当分掌に責任を持ち、計画的に取り組むことができた。また、リーダーが中心となり分掌内で役割分担し進捗状況を共有しながら進める事ができた。しかし、分掌間で差があり、誰に聞けば良いのかかわからない事があるため、全体への周知の仕方は工夫が必要である	B	B	・子どもが、家庭で園での出来事をよく話している。子どもが伝えてくれた事が、今日の評議員会で見た事とつながり、理解が深まった。 ・支援の必要な子を、担当が一人で抱え込んでしまふ事例を過去に目にした事がある。全職員に共有し、多くの目で見ていくと様々な意見がもらえる為、職員間の情報共有やみんなで考えていく事は重要と感じる。これからも意識して取り組んでいってほしい。 ・しろくまの会を見る機会があると良かった。 ・職員は職種の違いやシフト勤務があり、会議に参加できない時には個人が自ら情報を取り込もうとする意識を持つ事が大切になってくるのではないかと、しかし、現場の工夫だけでは限界がある。改善の為には、システムの見直しなど、静岡市の協力が必要になってくる	リーダーだけが負担を負う事のないよう、全体的計画などの計画段階で細かく役割を決める事が必要である。また、会議の場で、分掌が進捗状況を伝え合う時間を設け、全体への周知を図っていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマ「子どもの“伝えたい”」思いがふくらむ保育者の援助」について共通理解し、手立ての検証を行い改善しながら保育が進められている	園内研修の進め方を工夫し、様々な職員から意見が出やすいようにしたこと、各学年の発達に沿った手立てや育ちについての学びにつながった。その学びが実践につながるように意識していきたい。	B	A	・子どもが、家庭で園での出来事をよく話している。子どもが伝えてくれた事が、今日の評議員会で見た事とつながり、理解が深まった。 ・支援の必要な子を、担当が一人で抱え込んでしまふ事例を過去に目にした事がある。全職員に共有し、多くの目で見ていくと様々な意見がもらえる為、職員間の情報共有やみんなで考えていく事は重要と感じる。これからも意識して取り組んでいってほしい。 ・しろくまの会を見る機会があると良かった。 ・職員は職種の違いやシフト勤務があり、会議に参加できない時には個人が自ら情報を取り込もうとする意識を持つ事が大切になってくるのではないかと、しかし、現場の工夫だけでは限界がある。改善の為には、システムの見直しなど、静岡市の協力が必要になってくる	研修テーマや日々の手立てを意識できるよう、園内研修に参加できない職員への伝達の仕方を工夫し、全職員の共通理解のもと、保育していくようにする
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが考え試したり工夫したりできるような可動遊具や用具、自然物が用意されている	マルチバネや丸太・タイヤなど、子ども達が自ら動かし遊びに使える素材を用意した。安全面を考慮して自然物の提供をしている	B	B	・子どもが、家庭で園での出来事をよく話している。子どもが伝えてくれた事が、今日の評議員会で見た事とつながり、理解が深まった。 ・支援の必要な子を、担当が一人で抱え込んでしまふ事例を過去に目にした事がある。全職員に共有し、多くの目で見ていくと様々な意見がもらえる為、職員間の情報共有やみんなで考えていく事は重要と感じる。これからも意識して取り組んでいってほしい。 ・しろくまの会を見る機会があると良かった。 ・職員は職種の違いやシフト勤務があり、会議に参加できない時には個人が自ら情報を取り込もうとする意識を持つ事が大切になってくるのではないかと、しかし、現場の工夫だけでは限界がある。改善の為には、システムの見直しなど、静岡市の協力が必要になってくる	壊れているものはないか定期的に見直ししたり、才児に合った自然物の利用の方法を考えたりして安全性を考慮しながら環境を作っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの姿や成長を、日々の会話やドキュメンテーションなどで工夫して発信し、保護者と子どもの育ちを支える関係づくりに努めている	日々の会話やクラスボードで子どもの様子を伝えたり、行事の際にはドキュメンテーションが作られ、保護者と育ちの共有がされている	A	A	・子どもが、家庭で園での出来事をよく話している。子どもが伝えてくれた事が、今日の評議員会で見た事とつながり、理解が深まった。 ・支援の必要な子を、担当が一人で抱え込んでしまふ事例を過去に目にした事がある。全職員に共有し、多くの目で見ていくと様々な意見がもらえる為、職員間の情報共有やみんなで考えていく事は重要と感じる。これからも意識して取り組んでいってほしい。 ・しろくまの会を見る機会があると良かった。 ・職員は職種の違いやシフト勤務があり、会議に参加できない時には個人が自ら情報を取り込もうとする意識を持つ事が大切になってくるのではないかと、しかし、現場の工夫だけでは限界がある。改善の為には、システムの見直しなど、静岡市の協力が必要になってくる	1月から連絡帳への写真添付ドキュメンテーションの配信がコドモンで始まるため、保育者だけではなく、保護者への周知もしていく。より良い方法をその都度考えていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	アプローチカリキュラムを元に、架け橋期としての情報共有を行いながら、近隣小学校との連携を進めている	避難訓練や学校探検などで、小学校を訪問する機会を何度か持ったことで、小学校を身近に感じることができた。また、近隣園と小学校の職員同士が話をする場もあり、情報交換・交流をすることができた。	B	B	・子どもが、家庭で園での出来事をよく話している。子どもが伝えてくれた事が、今日の評議員会で見た事とつながり、理解が深まった。 ・支援の必要な子を、担当が一人で抱え込んでしまふ事例を過去に目にした事がある。全職員に共有し、多くの目で見ていくと様々な意見がもらえる為、職員間の情報共有やみんなで考えていく事は重要と感じる。これからも意識して取り組んでいってほしい。 ・しろくまの会を見る機会があると良かった。 ・職員は職種の違いやシフト勤務があり、会議に参加できない時には個人が自ら情報を取り込もうとする意識を持つ事が大切になってくるのではないかと、しかし、現場の工夫だけでは限界がある。改善の為には、システムの見直しなど、静岡市の協力が必要になってくる	交流の日程を計画的に立てていきたい。年長児だけでなく、他の学年も小学校に遊びに行く機会があると良い。公開保育や公開授業での情報交換の機会を生かせるよう、日程を調整し参加しやすいようにしていく。また、アプローチカリキュラムを活かし、小学校と連携を図れるようにしたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	散歩に出かけ地域の方々や挨拶を交わしたり、相撲教室に参加したりするなど交流を重ねている	相撲教室やしめ縄つくりなどにおいて、地域の方々との交流ができていた。散歩や園見学では、職員が積極的に地域の方々や挨拶をすることで、親しみが持てるようにすると共に子どもたちの手本となるようにしている	A	A	・子どもが、家庭で園での出来事をよく話している。子どもが伝えてくれた事が、今日の評議員会で見た事とつながり、理解が深まった。 ・支援の必要な子を、担当が一人で抱え込んでしまふ事例を過去に目にした事がある。全職員に共有し、多くの目で見ていくと様々な意見がもらえる為、職員間の情報共有やみんなで考えていく事は重要と感じる。これからも意識して取り組んでいってほしい。 ・しろくまの会を見る機会があると良かった。 ・職員は職種の違いやシフト勤務があり、会議に参加できない時には個人が自ら情報を取り込もうとする意識を持つ事が大切になってくるのではないかと、しかし、現場の工夫だけでは限界がある。改善の為には、システムの見直しなど、静岡市の協力が必要になってくる	散歩の機会を増やし、地域の方々との関わりを通して園への親しみや関心を持つようようにしていきたい。伝統行事である相撲大会を継続できるよう、地域の方と相談していく